【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立小川小中学校
1　前年度 評価結果の概要	**項目別三者比較によると、どの項目も、概ね肯定的な評価であった。しかし、取組自体が形骸化しないよう、今後も目標をしっかり定め、目標に向かって絶えず取組を継続し、改善に努めていく。そして、学校全体としてさらなる向上を図っていきたい。**
2　学校教育目標	**自立・貢献** **～　未来へはばたく子どもたち　～**
3　本年度の重点目標	**(1)　児童生徒 一人一人に応じたきめ細やかな学級経営の実践** **(2)　確かな学力の育成と進路保障** **(3)　児童生徒の問題発見・解決能力を育成し、自分の意見を積極的に表現できる児童生徒の育成** **(4)　島を愛し、島の文化を大切にする心の育成** **(5)　業務内容の見直しを通し、やりがいと魅力のある職場環境の創造**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	●「唐津の学びスタイル」チェックシートの評価の平均が3以上	・「唐津の学びスタイル」チェックシートを活用し、日々の授業改善に取り組む。 ・校内研修により授業研究会等を行い、取組の促進を図る。	A	・校内研究のテーマに基づき、思考力、判断力、表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師が100%であった。 ・「唐津の学びスタイル」チェックシートを活用し、評価の平均が3.5（満点4）となり、目標を達成できた。	A	・子どもたちの学力が向上しており、申し分ない。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	○思考力、判断力、表現力の育成	○校内研究テーマに基づき、思考力、判断力、表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師90%以上	・校内研究テーマに基づいて小中がそれぞれに研究仮説を立てて研究を進め、授業の展開の研究やワークシート等の開発、個に応じた指導に取り組む。	A	・各教師が「唐津の学びスタイルチェックシート」で取り組む項目と、校内研究の目標、目指す児童像及びそのための手立てを意識して単元や授業の構成を工夫した。全員で実践を振り返り、改善点や改善策を協議し、共通理解を図った。さらに取組を充実させたことも効果的であった。手立てを取り入れながら思考力、判断力、表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師は100%であった。	A	・他校との交流授業も積極的に実施されており、児童・生徒の思考力や表現力が高まっていると思う。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやり社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳アンケートや人権・平和集会などのアンケートに、自分の思いや考えを書けた児童生徒100%	・道徳や人権・平和集会に関するアンケート、心の健康アンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや評価に関する小中部会等の実施	B	・人権・平和集会などのアンケートに、自分の思いをしっかり記述できていた児童生徒は98%で、おおむね達成できた。 ・道徳の授業や評価のあり方について意見交換をして共通理解を図った。	A	・最終評価がBとなっているが、なぜだろうか。A でいいのでは。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを全職員で共有し、必要に応じて見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	A	・児童生徒の生活の様子について、1年を通して定期的に情報交換をする時間を設けることができた。組織なきでも情報共有をすることができたため、全職員での早期発見、対応によりいじめの問題が起こることはなかった。 ・道徳の授業でいろいろな場面でのコミュニケーションスキルトレーニングを行い、大人数になっての人間関係の調整を経験的に学ぶことができた。	A	・道徳の授業は週に何時間あっているか。週に1回あるのであれば、いいのではないか。 ・いじめの話は聞かないし、上下関係もよく仲良いと思う。	生徒指導主事
	●地域について学ぶ授業や地域との交流活動計画し、郷土愛を育てる。 ●離島の学校との交流活動計画し、親睦を深める。	●アンケートにより、小川島の良いところや課題について、90%以上の児童生徒が記述することができる。 ●アンケートにより、近隣の島の良いところや課題について、90%以上の児童生徒が記述することができる。	・島ならではの行事や、島の方々との交流活動等を年間計画に組み入れ、担当者を明確にして計画的に行う。 ・地域と関連させた学習活動を通して、地域の課題について知り、その解決策等を考えさせる。 ・交流のある島と同学年合同授業や、タブレット端末を活用したリモート交流を行う。	A	・小川島の良いところ、課題について100%の児童生徒が記述できると回答した。 ・各行事に多くの島民の方が参加され地域交流ができた。 ・佐志小学校3年生とリモート交流学習、呼子小学校4年生来校し海洋教育、馬渡小中学校来校交流、加唐小学校訪問交流を行い、近隣の小学校や交流のある離島学校と交流ができた。	A	・交流と言えば、私たちの頃は同じ呼子町の加部島中と一緒に修学旅行に行っていた。他校との交流が活発で子どもの成長につながっていると思う。	教務主任 特別活動部担当 総合的な学習担当
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康によい食事をしている」と考える児童生徒85%以上 ●朝食をとって登校する児童生徒100%	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施（児童生徒と保護者対象に） ・保健だよりの発行（本校の健康課題を中心にした内容）	A	・アンケート結果から朝食の喫食率100%である。家庭も、朝食を必ず食べさせてから、子どもを学校に送り出すことで、学校での活動が活発にできることを理解できていることがわかる。健康にとって「食事」の重要性を児童生徒にも少し浸透させるには、食育便りや掲示物では自分事として捉えるのが弱いので、外部講師を招いて、「食育教室」を実施した。「バランスの良い食事」をテーマとして消化、吸収、（腸内環境）、排泄まで自分の体を知り、食生活の振り返りができた。	A	・このまま取組を継続してやってもらいたい。	保健主事 食育推進担当者
	●基本的生活習慣の育成	○自分に適した生活リズム（睡眠を含む）を知り、快適な生活を送ることができるような習慣を実行する児童生徒85%以上	・睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」を年間を通して身に着けさせる。 ・基本的な生活習慣の一つとしての快適な排便の重要性を知らせ、自らの健康を排便によって判断できるようにする。	B	・アンケートを集計し、快適な生活を送ることができるような習慣を実行する児童生徒が90パーセントを超えた。 ・快適な生活を送るために、睡眠に関するクイズを掲示したり、排便などの内容を扱った食育教室を実施できたりした。	A	・子どもたちは、遠くからでも大きな声で挨拶をしてくれる。 ・健康教育は、このまま取組を継続してやってもらいたい。	生徒指導主事 保健主事 食育推進担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○行事等の縮減	・小中連携による部活動・社会体育の実施・定時退勤日の設定・学校閉庁日の設定・部活動休養日の設定・行事等の統合・廃止	B	・時間外勤務月間45時間超の割合も少しずつ減った。学期ごとの時間外平均は月平均3時間減少した。 ・行事の見直しや統廃合が進展した。	A	・特になし	管理職
	○長期休業中を中心に、年休の取得を促進	○夏季休業中に、5日以上の年休を取得した教職員が80%以上 ・年間10日以上の年休を取得した教職員が90%以上	・日ごろから年休を取得しやすい職員室の雰囲気を作る。 ・長期休業中は、年休を平均で4日以上取得する。	A	・8月上旬に台風接近のため定期船が欠航したため特休となり、夏季休業中の年休取得率としては数値目標をやや下回ったが、実質的には十分達成できた。	A	・特になし	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	○効果的なICT利活用教育の推進 ○ZoomsやTeamsを活用した交流の推進	・一人一台端末を、1日2～3回程度、利用する。 ・小学校では、ZoomやTeamsを活用した他校との交流授業等を年間15回以上行う。中学校では、月1回程度、ZoomやTeamsを活用して他校との交流会を行う。	・電子黒板や一人一台端末を操作する機会を増やす。 ・他の離島と連携し、ZoomやTeamsを活用した授業やスピーチタイムを実施する。	A	・授業で発表する際に、powerPointなどを用い資料を作成し、わかりやすく相手に伝えられるよう活用することができた。Zoomを利用して月に1度以上、小・中学校ともに、他校との交流を行うことができた。	A	・このまま様々な取組を継続してやってもらいたい。	ICT推進リーダー
○児童生徒のキャリア観の育成	◎キャリア教育における汎用的能力である問題発見・解決能力及び表現力の向上に努め、自らの意思をしっかりと伝えられる児童生徒を育成する。	◎自ら設定した課題について、その考察や意見等を分かりやすく、伝えることができた児童生徒70%以上	・スピーチタイムやスピーチ交流会をはじめ、全ての教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせたり発表させたりする時間や場面を設ける。	A	・人前で自分の意見や考えをきちんと話すことができると答えた児童生徒は90%、保護者は100%であった。 ・中学2年生が職場体験の体験談や感想をスピーチタイムで発表し、全校で共有したり意見交換を行ったりすることができた。	A	・小川小中学校の子どもたちや先生方が頑張っていることがよく分かった。この調子で、来年度も頑張ってほしいと思う。	研究主任 特別活動部担当 総合的な学習担当
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上	・全職員向けに特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・生徒指導協議会等ですべての児童生徒について共通理解を図る。 ・小学校低学年においてコグトレを活用した実践に取り組む。	A	・特別支援教育に関する研修会を実施できた。小学校では、校内研究と兼ねて「どの子も伸びるユニバーサルデザインな授業・集団づくり」の研修をした。・生徒指導協議会を実施し児童生徒についての共通理解ができた。	A	・特になし	特別支援教育コーディネーター

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望

・本校は各学級が少人数であるため、日々の授業において児童生徒の特性や学習進度、到達度に応じた指導を柔軟に行うなど個別最適な学習を実推進している。また、複式による渡りの授業は行わず、各学年での授業を展開しているため、それらが児童生徒の学力向上につながっている。
・教師は、思考力、判断力、表現力等を高める授業づくりに取り組んでおり、授業は「分かりやすいか」というアンケートに児童生徒の8割が「とてもあてはまる」と回答している。
・教師は、児童生徒を「ほめてからはじめる」意識で、一人一人を大切にする学級経営に取り組んでいる。児童生徒アンケートでは、「一人ひとりを大切にする学級経営であるか」、「あいさつや礼儀正しい生活をしているか」については、9割があてはまると回答している。また、「楽しい学校生活を送れていますか」については100%の児童生徒がそうであると回答した。
・地域人材、外部講師を積極的に活用した学校行事や地域性のある体験や交流活動などを数多く取り入れ、達成感や満足感を味わうことで自己肯定感を高めるとともに郷土を愛する気持ちを育んでいる。
・スピーチタイムやスピーチ交流会、他校とのオンライン交流会を計画的に実践し、表現力の育成に努めてきた結果、人前で自分の意見や考えをきちんと話せていると答えた児童生徒が93%と増加している。
・昨年度に続き、朝食を食べて登校している児童生徒の割合が100%を達成できた。
・総合的な学習の時間において、「おがわプロジェクト」や磯清掃等に取り組み、海ごみの問題について情報発信に努めたことで、地域社会への啓発をすることができた。
※次年度も保護者や地域の協力を得ながら、協働的な学びや学校行事の更なる充実を図り、「島とともにある学校づくり」を推進していきたい。